

# UNIRITA

vol.52

## Magazine ユニリタマガジン



特集

withコロナ、  
ニューノーマル時代の

# 「働き方改革」

～ユニリタの取り組み～

ユニリタ製品で働き方改革!  
アイデアコンテスト 開催!

ユニリタ営業本部の  
プロジェクト活動

「事業部門にある日々の現場の業務」＝「おしごと」を  
改善・改革するための情報&コミュニティサイト  
「おしごと改革らぼ」を開設しました!

### UNIRITAユーザ会

2020年度UNIRITAユーザ会  
研究部会全体会をリモートで開催!

### システム管理者の会

認定講座  
初級コースをオンラインにて開催決定

### コラム

ユニリタ今昔物語  
コロナで大きく変わった今の  
労働環境やITの現状を考える

ユニリタ  
イメージタレント  
朝倉あき

# withコロナ、ニューノーマル時代の「働き方改革」

## ～ユニリタの取り組み～



新型コロナウイルス感染症(以下:コロナ)の影響により、社会やビジネスは大きく変わろうとしています。緊急事態宣言以降、企業はさまざまな対応を通じて、事業を継続してきました。特に労務面とITインフラ面を急速に整備し、リモートワークに対応していきました。

近年、話題になっていきましたがなかなか推進しなかった「働き方改革」が、今回のコロナの影響により大きく前進したことは、ある意味コロナによる数少ないポジティブな効果なのかもしれません。

2020年10月現在、コロナ収束の見通しは立っていません。世界保健機関(WHO)はコロナ収束までに2年程度の期間を要する見込みとの談話を発表しています。もしかすると、人類とコロナはなんらかの形で永遠に共存していく必要があるのかもしれない。

そこで最近よく耳にするのが、コロナによって変わってしまった新たな日常を表す「ニューノーマル」と、そのニューノーマルを受け入れ、社会生活やビジネスの面でもコロナとの共存を目指して、新しい環境に適した生活様式、労働環境を築き上げ、ビジネスを発展させていくという「withコロナ」という考え方です。

今回、withコロナ、ニューノーマル時代に求められる働き方とそれを支えるITとはどのようなものなのかを説明するとともに、ユニリタが実際に行っているさまざまな取り組みについてご紹介します。少しでも皆様のご参考にできれば幸いです。

### 働き方改革の推進と求められるIT

コロナによってもたらされたリモートワーク導入をはじめとする「働き方改革」の推進は、従業員、特に経営層に対して会社で働く意識を変えるものでした。コロナ禍以前のリモートワークの取り組みは、「会社でする仕事を、一時的に家でおこなう」ことでした。ニューノーマルでは「通常は家で仕事をして、必要な時だけ会社に行く」という認識が変わってきています。この考え方を発展させると、現在のオフィスのスペースは必要なのか、通勤交通費の削減、リモートワークに対する経費や手当、BYOD導入やハードウェアの貸与などさまざまな改善点が見えてきます。従業員にとっても、都市部に住む必要があるのかという居住地、家族との時間、出産や育児、介護などさまざまな問題の解決につ

ながる可能性を秘めています。今後、コロナが完全に収束したとしても、以前の日常に戻ることはないでしょう。このニューノーマルを前提とした労働環境がより最適化され進化していくと思われます。そういう意味ではwithコロナ、ニューノーマルへの対応というものは、「働き方改革」の推進そのもので、多様化した働き方を実践していくことなのかもしれません。そして「働き方改革」をさらに推進し、働き方の多様化を進めていくためにはITの活用が必要不可欠となっています。デジタル・ITの力を使い、場所にとらわれずに個人が業務を遂行するだけでなく、企業としてビジネスそのものを推進していくことが必要です。

### 「働き方改革」の4つのステージとユニリタの取り組み

	ステージ1 ロケーションフリー	ステージ2 情報共有/連携	ステージ3 生産性の向上	ステージ4 DX
定義	自宅をはじめ、場所にとらわれずに、PC機器やネットワークを整備し、快適かつ一定程度のセキュリティが担保された環境で仕事ができる状態にする必要があります。現在はこのステージが多く、働き方改革における、環境の整備段階といえます。しかし、従業員の働き方においては、ルールや基準、労務管理やモチベーションの維持などの課題も出てきました。	次のステージは、働く人と人との情報共有/連携を実現することです。オフィスにすることを前提としている従来の業務プロセスでは「人に聞く」「紙の資料」など、出社しなければ対応が難しい仕事が多くあり、ロケーションフリーではできない、あるいは効率的でない仕事もあります。もとに戻らない、または今後も働き方改革を実現していくためには、情報の共有をシームレスに、かつセキュアな状態で実現することが必要不可欠といえます。	情報が効率的に共有されることによる生産性の向上も期待できますが、これまでオフィスに出社していたからこそ実施できた、各種業務や組織間の「調整」業務が大きな壁として立ちちはだかります。生産性の向上のためには、組織間の「壁」をなくし、業務プロセスが可視化され、運用ルールも明確であることが求められます。これらの業務をデジタル・ITを活用することによって、ペーパーレスや、企業活動のデジタルデータ化にもつながり、DX実現の基盤として構築することを目指します。	働き方改革の先にあるもの。企業のDXの実現には、働き方改革の実現が必要不可欠といえます。これまでの働き方を見直し、デジタル・IT技術を活用することによって、企業の在り方そのものを問い直すことが必要なのではないでしょうか。また、DXのためのデジタル・ITによる新しいシステム構築や利用との整合性も図っていく必要があります。人とデジタルを連携し、企業価値を高めていくことがDXの本質であると考えています。
問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅に十分な速度のインターネット環境が無い</li> <li>家族への配慮</li> <li>会社の設備が対応できていない</li> <li>出社しないとできない仕事がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業内の情報が分断されている</li> <li>情報を共有する仕組みがない</li> <li>捺印などのために出社が必要</li> <li>メンタルヘルス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロセスが暗黙知になっている</li> <li>部門間の壁が高く、サイロ化</li> <li>紙での処理が多く残っている</li> <li>人事評価の変更が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営に資するデジタルデータが統計的に管理されていない</li> <li>システムやデータが散在している</li> <li>ビジネスがサービス化されていない</li> </ul>
課題	インフラの整備(PC機器、ネットワーク、ソフトウェアツール、什器)、ITリテラシーの向上、就業機会の拡大、労務管理	ポータルや情報連携の強化、セキュリティ強化、人事制度設計の見直し、リモートワークのリテラシー向上、データマネジメント	BPR/BPM、プロセス整備、ワークフロー、データ連携、業務改革、制度設計、効果測定、プロセスマネジメント	デジタルデータに基づく経営判断、SoE/Solの整備、デジタル変革、DX人材の育成、サービスマネジメント
ユニリタの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモートワーク環境の整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>BYOD推進</li> <li>サテライトオフィス(現在は使用中止)</li> <li>事業所のフリーアドレス化</li> </ul> </li> <li>ネットワークインフラ整備</li> <li>業務アプリケーションのクラウド化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションツール導入(Slack、STORE+、infoScoop)</li> <li>Web会議(Google Meet、Zoom)</li> <li>危機管理委員会からの迅速な通達</li> <li>ユニリタフェスティバル(社員レクリエーションのWeb開催)</li> <li>リモート飲み会の推進</li> <li>Unipos導入(感謝の可視化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務効率化アイデアコンテストの実施</li> <li>Ranabaseでの業務可視化</li> <li>全社/部門プロジェクト文化創造PJ、人材育成など</li> <li>人事評価、勤怠管理システムの見直し</li> <li>電子契約への移行</li> <li>規約や業務プロセスの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務のデジタル化を通じ、グループ各社のバックオフィスの共通化を図る</li> <li>サブスクリプションモデルへの挑戦                             <ul style="list-style-type: none"> <li>サブスク検討プロジェクト</li> <li>新組織発足</li> </ul> </li> </ul>

### 「働き方改革」のステージとユニリタの取り組み

ユニリタでは、コロナ禍の前から「働き方改革」推進のために、さまざまな対応を行ってきました。その事前の準備がコロナ禍対策では功を奏し、比較的混乱なくリモートワーク環境を構築できました。これらの対応の詳細は、ユニリタのコロナ奮闘記というコラムで紹介していますので、興味のある方はご一読ください。

情報システム部のコロナ奮闘記

<https://www.sysadmingroup.jp/col/p21011/>



営業本部のコロナ奮闘記

<https://www.unirita.co.jp/covid-19/sales-column-1.html>



これらの経験を通じ、ユニリタではこれからのwithコロナを想定して「働き方改革」を進行度にわけて4つのステージとして定義しました。そしてそれぞれのステージでユニリタが行っている取り組みを紹介します。

#### ・ステージ1 ロケーションフリー

リモートワークを実践するための環境を整備する必要があります。ユニリタではネットワーク整備やオフィスのフリーアドレス化などを行い、BYOD補助などITインフラと労務の両面で環境を整備しました。

#### ・ステージ2 情報共有

リモートワークが始まると情報の共有が重要になります。ユニリタでは、用途に合わせて、複数のコミュニケーションツールやネット会議システムを導入し、セキュアな情報共有を実現しています。また、従業員のメンタルケアや従業員同士のコミュニケーション促進のために、リモート飲みやネットで参加できる社内イベントなどを行っています。

#### ・ステージ3 生産性の向上

情報共有が実現され通常業務に支障がなくなると、次は生産性の向上が課題となります。リモートワーク環境でも業務効率化をはかる必要があります。

ユニリタでは、ツールを利用した業務プロセスの可視化と全社プロジェクトなどによる業務の見直しを行っています。また社内アイデアコンテストによる業務効率化のアイデアを募集し、製品化を進めています。さらに営業本部では全員が参加する複数のプロジェクトを発足させ、本部内の課題解決や組織運営に活かしています。

#### ・ステージ4 DX

働き方改革の最終ステージはDXの実践です。これまでの働き方を見直し、デジタル・IT技術を活用することによって、企業価値を高めていくことがDXの本質であると考えています。ユニリタでは、業務のデジタル化を通じ、グループ各社のバックオフィスを共通化することで経営判断に必要なデータの最適化を図ったり、サブスクリプションモデルへの挑戦といった、新たな企業価値の創造に取り組んでいます。

ユニリタでは、「働き方改革」のノウハウや提供可能なサービスについて、説明している動画を公開しています。

ステージごとに関連する動画をまとめましたので、ぜひご覧ください。

そして、今回ご紹介したユニリタの取り組みの中から、「業務効率化のアイデアコンテスト」と「営業本部のプロジェクト」における活動内容の説明と、「サブスクリプションモデルへの挑戦」から新たに発足した新組織とその活動について、次ページからより詳細にご紹介します。

#### 働き方改革に関連する動画

##### ステージ1

交通整理

<https://youtu.be/jaQafEm0lp0>

仕事効率化！リモートワークのメリットを最大限に活用する方法

<https://youtu.be/KJeVBaLusOk>

##### ステージ2

これからの情報共有！リモートワークで情報共有を促進しよう

<https://youtu.be/L7f4RR15aIU>

##### ステージ3

生産性向上「4つの壁」の取り組み方！

<https://youtu.be/M2CXLD4ITyc>

<https://youtu.be/9i7cZr8HkrQ>

このほかの「働き方改革」に関する動画はこちらをご覧ください

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLUspF-2pbX1rkJsZq3G7FpY0r2BqQNG5v>

# ユニリタ製品で働き方改革！ アイデアコンテスト開催！



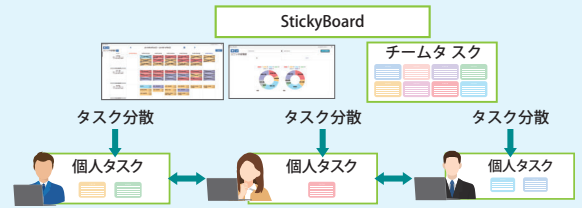
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を契機に、ビジネススタイルがリモートワークに変わるなど働き方が大きく変わりました。ユニリタでも、各部門で試行錯誤しながら新しい生活スタイルに合わせた業務改善を行っています。このような業務改善や改善のアイデアは、「ほかの部門でも同じような課題があり参考になるのでは?」、「他社の同じ悩みを解決できるのでは?」といった可能性を秘めています。また、ユニリタグループでは多くの製品・サービスを提供しており、今だからこそ生きる新しい使い方もあるはずで

そこで『ユニリタ製品で働き方改革/アイデアコンテスト』を開催して社内からアイデアを募集しました。募集は、実装に向けて検討中の「実装編」と、改善に向けたアイデアを募集する「アイデア編」の2種類で行いました。

以下はアイデアコンテストへの応募の一部です。皆様にも同じような課題がありましたら参考にしてください。

## ① リモートワークで可視化しにくい業務タスクを見る化して改善

リモートワークで場所がバラバラでも小日程をWebで共有することができます。チームで誰が何をやって何の課題があるかを可視化でき、生産性の低下を防止、チームの最適化が図れます。すでにユニリタ社内で100名以上の利用実績がある仕組みです。一般的なタスク共有のツールは、プロジェクト単位のタスク管理が多いですが、チームでの個人単位におとしたタスク管理ができるツールはあまりありません。リモートワークで見えにくくなりがちなチーム管理に最適です。



## ② 郵送が中心だった出荷業務を電子配信に。ダウンロード状況もわかりサービス品質も向上

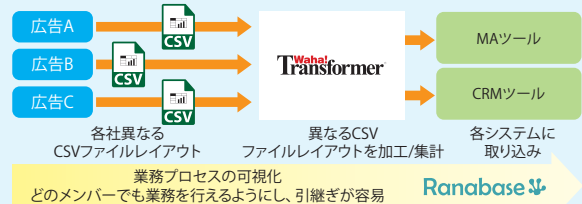
ユニリタの出荷業務は、メディアの作成から発送まで社内に入出荷センターで行っていましたが、リモートワークになり遠隔地からでも出荷できるような業務変革が必須になりました。「文書公開サービス」を利用したWeb出荷に変更することで、お客様のダウンロード状況もわかるばかりか、郵送にかかる日数も削減できスピーディーな出荷業務を実現しました。



実装編

## ③ 広告からのリード情報を自動的にMAツールに連携。データ加工のプロセスを可視化し属人化から脱却

広告記事で得られたリードは、広告媒体ごとにレイアウトが異なりMAツールやCRMツールに取り込むためにExcelでの加工が必要でした。これを「Waha! Transformer」でデータを収集・加工し、MAツール・CRMツールへの取り込みまでを自動化。また、従来は口頭で説明し行っていた業務を「Ranabase」で可視化することで、特定のメンバーに負荷が集中することがなくなり引き継ぎ業務の軽減にも貢献しました。



## ④ 忙しいと忘れがちな業務指示をデジタルで解決。カレンダー登録やリマインドも自動化され対応漏れを防止

これまでメンバーへの指示はそれぞれがカレンダーやタスク管理に登録していましたが、進捗がわからず期限管理を行っていく課題がありました。この課題を「STORE+」で指示業務の可視化を行うことで改善します。指示を受けた人は自動的にカレンダーに指示

が登録され期限前に自動リマインドで通知、指示を出した人はどのメンバーが指示業務を終えていないのかを確認でき、多忙な中でウっかり忘れがちな指示も漏れなく対応できる組織に改革します。

アイデア編

## ⑤ ノウハウの共有で人材育成の強化を! 「人材育成アカデミー」

ユニリタではこれまでデータ活用・システム運用をはじめとした多くの製品・サービスを提供しています。製品や業務のノウハウはユニリタの大きな財産ですが、社内の教育コンテンツやカリキュラムをどのように管理して伝承していくかは大きな課題となっていま

した。「infoScoop」で全社共有することで成長度合いや進行状況に合わせたカリキュラムの提供、有識者からのフィードバック・アドバイスを受けられる仕組みを提供します。リモートワーク環境下でもデジタルコンテンツで社内教育できる環境を構築します。

## ⑥ 「誰がどこで何をしている?」社員の勤務状況を一元化

リモートワーク中心のビジネス環境になり、社員がどこで働いているのかがわかりにくくなっています。「infoScoop」でカレンダー情報を集約しガジェット化することで

社員の出勤状況を簡単に把握することができます。今後は出勤率を自動計算できる機能をつけることでExcelなどを使った別集計などの冗長な業務を削減します。

ここに掲載したのは応募の一部です。これらのアイデアはすべてユニリタグループの製品・サービスで実現できますので気になるものがありましたら、ぜひお声をください。

アイデアの中には新しいサービスの「種」になりそうなものもあり、今後

皆様にお役立ていただけるようなサービスの開発検討も行っていますのでこちらでもご期待ください。

また、お客様の課題やお困りごとの中にも「種」は隠れていますので、当社の担当者に皆様の課題をお聞かせください。

# ユニリタ営業本部のプロジェクト活動



営業本部は、営業部、代理店向け販売を行うパートナー営業部、マーケティング部、営業事務を行う支援グループの4つの部門から構成されています。このように内容の違う多様な業務を行う組織である営業本部では、コロナ禍になる以前から、自らが考えて変化する組織を目指し、営業本部が抱える課題や進むべき方向を部員自らが考えるように、プロジェクトチーム(以下:PJ)を発足させていました。全部員がいずれかのPJに参加し組織運営に参画しています。PJの内容も多岐にわたりますが、その内容によっては営業本部の枠を超え、全社的なPJや他部門とコラボレーションしています。6カ月を活動期間としてアウトプットをだし、その後は活動の継続、廃止、あるいは新しいPJ発足などを検討しPJ活動を継続させています。現在は、コロナ禍の影響で変わってしまった新たな日常(ニューノーマル)に向けてどのように対応するかを各PJで検討しています。

今回は実際のどのようなPJが発足しどのような活動をしているのかを紹介します。皆様の参考にできれば幸いです。

## アカウントプランPJ

営業部では、お客様の中期経営計画の把握から今後の取り組み内容を理解し、課題解決を支援する提案活動「アカウントプラン」を実施しています。

現在では、新型コロナウイルスによる影響でリモートワークが浸透し、今までのような対面型の商談からオンラインでの営業活動へ大きくシフトを求められている状況にあります。

そのためWEBセミナーやアンケート等での情報発信・収集などを行い、非対面での営業活動スタイルに切り替えています。

「アカウントプランPJ」では非対面になっても、よりお客様の中期経営計画、ご課題を丁寧に集めて、ユニリタが培ってきたノウハウと新しいサービスを融合させて、課題解決をお手伝いできる営業を目指し活動しています。

## Salesforce活用PJ

「Salesforce活用PJ」は営業本部で使用するSFAを部署問わず利活用の促進を図ることで、お客様へ紹介する情報の質の向上や活動分析を通して営業個人の成長への貢献を目的としたPJです。コロナ禍に伴う業務体制の大きな変化の影響やそれに伴う営業スタイルの変革が求められているため、社内における情報の見方や可視化の方

法を見直し、良い情報を良いタイミングでお客様へご提供することを目指して活動しています。現在は過去に当社で実施した施策や現状のSFAの利用状況の整理を経て、営業個人に焦点を当てた利活用案の企画を推進しています。

## 営業のカスタマーサクセスPJ

「営業のカスタマーサクセスPJ」では、“お客様の成功体験を最大化する”ために必要な営業のマインドや施策について考え、実践しています。

カスタマーサクセスを実現するためには、お客様の状況を正確に

把握し、常にお客様目線であり続けなくてはなりません。

現在は、「お客様にお会いできる」ことがあたりまえではなくなってしまったコロナ禍の中でも、お客様とONE TEAMであり続けるためのコミュニケーション方法について議論し、取り組みを行っています。

## キャリアパスPJ

「キャリアパスPJ」では、2019年度下半期より営業本部に所属する個人が「目指すべき姿」のイメージができ、自己のキャリアアップに役立つよう、「キャリアパス」の検討・作成をしてきました。

現在では、新型コロナウイルスの影響もあり、テレワークが主流と

なるなど働き方が大きく変化しました。

それに伴い、2020年度上半期のPJ活動では、今後求められるスキルも変化するだろうと考え、“新しい働き方”に合わせた「キャリアパス」について議論し、作成しています。

## 営業リモートワークPJ

営業の仕事と言われると、お客様とお会いすることをイメージされるでしょうか?確かに、お客様と接することが多い部門ではありますが、提案書や契約書、請求書などの紙や捺印が必要なオフィスでの業務も多岐にわたります。

「営業リモートワークPJ」は2019年度下半期に発足し当初は、東京五輪を見据えてどうすればリモートワークができるかというテーマで

活動を開始しましたが、コロナ禍により状況は一変、オフィスでの業務をなるべく少なくするための活動にシフトしました。そして現在、リモートワークは特別に取り組むことではなく、リモートワークとオフィスを両立する新しい働き方として「ハイブリッドワーク」を提案できるよう活動を行っています。

## ユニリタ営業のありかたを考えるPJ

「ユニリタ営業のありかたを考えるPJ」ではITコンシェルジュの定義「ユニークで利他な営業活動を行い、お客様の事業課題や社会課題を解決することを目指す」を実践することを目的としています。コロナ禍の影響によりお客様のニーズがより複雑化してきており、さまざま

な製品を組み合わせたソリューション型の提案が求められています。

お客様から営業に求められているものが何か、お客様のビジネスに貢献できるものは何かを常に考え、従来の営業スタイルからの変革を意識し活動しています。

## 新人研修PJ

「新人研修PJ」では新人が配属後に即戦力となる人材の育成を目的に研修を実施しました。

本PJは2019年度下期に発足し準備を進めてきましたが、実際の新人研修はコロナ禍の影響によりリモートでの実施となりました。

リモート研修によりコミュニケーション不足が予想される中で、

チャットツールを活用した日々のコミュニケーションや若手自身が作成した動画でのビジネスマナー研修など新しいアイデアを活かしユニリタでこれまでにない研修方法に積極的にチャレンジしました。

今年度だけの研修ではなく、来年度以降も活用可能な「ニューノーマル時代の人材育成」の礎となる研修づくりを心掛け活動しています。



おしごと  
改革らぼ

「事業部門にある日々の現場の業務」=「おしごと」を  
改善・改革するための情報&コミュニティサイト

「おしごと改革らぼ」を開設しました!

「働き方改革」のために、今やITは欠かせない手段となっています。システムによる自動化をおこなうことで業務の高速化や、人手がかかる作業の削減、さらには新型コロナの影響で急速に広まっているリモートワーク対応やペーパーレスの促進など、ITによる業務改善は各企業で日々おこなわれているかと思えます。

一方、現場に散在するちょっとした業務の改善にはなかなか手を付けられず、事業部門の人が膨大な人手をかけて対応していることもよく見られます。1つ1つの業務は数十分~数時間といったものも多いですが、それが積み重なり作業に追われている企業も多く見かけます。

これらの業務を改善するためにITを活用しようとしても、事業部門だけではどうやったらいいかわからない、部門でサーバ環境をそろえてシステムを構築できても運用まで考えると難しい、といった課題もあります。しかし、IT部門に相談すると話が大きくなり、1つ1つのちょっとした業務を改善するには費用対効果が合わずに断念するといった経験をされている方も多いのではないのでしょうか。

ユニリタでは、そんな現場で働く方のお悩みを解決するべく、

ちょっとしたことを楽にする

難しいことを簡単に

をコンセプトに、現場業務にあるさまざまな「おしごと」を改善・改革するための情報&コミュニティサイト「おしごと改革らぼ」を公開しました。

- ・毎月の経営会議や営業会議のExcelレポートを残業して作っている
- ・いまだに紙の注文書や請求書で、捺印や配送が必要でリモートワークができない
- ・マーケティング広告のリード取り込みが手動なので時間がかかる などなど…

これらの「おしごと」に関するお悩みを解決、改善できるサービスを順次提供していく予定です。

また、サービスを提供するだけでなく、サービスを活用するためのテンプレートやアイデアの提供、利用方法のマニュアルやチュートリアル、さらにはユーザ同士で情報交換やアドバイスができるコミュニティなど、業務の現場の方がITを活用して、ご自身でお悩みを改善できる環境も提供していきます。

「おしごと」のお悩み解決のために、ぜひともご活用ください。

## 第1弾は、「ちょこっとデータ変換/加工」!

「おしごと改革らぼ」では、業務に携わる方が、必要な時に、必要な分だけ利用できるサービスとして「ちょこっと」シリーズを順次提供していきます。

第1弾は、「ちょこっとデータ変換/加工」です。

「ちょこっとデータ変換/加工」は、

- ・新会計システムを導入するけど、旧システムからの移行データの作成が大変
- ・毎月の経営会議や営業報告資料をExcelで何日もかけて作成している
- ・マーケティングや経営分析で、データを使える形にするのに毎回時間がかかる

といった、日々の業務の中にある現場の“ちょっとした”データ変換、加工、集計業務をお助けするサービスです。

特長	かんたん!	データ並び替えのような簡単な業務から複雑なデータ加工まで、どんなデータもお任せください。シンプルな操作画面で簡単にデータにかかわる課題を解決します。
	べんり!	さまざまなテンプレートで、やりたいことがすぐにできます。わかりやすい操作画面でカスタマイズが簡単におこなえるので、業務に合わせた処理が構築可能です。
	はやい!	時間がかかるExcelでのデータ集計や転記作業、CSV形式データの項目編集などの加工業務を短時間で解決します。

現場業務の改善にぜひともご活用ください。



URL: <https://www.oshigoto-kaikaku-lab.jp>



### テンプレート



### 相談コーナー



ユニリタでは今回で紹介した「ちょこっとシリーズ」以外に「まるっとシリーズ」をクラウドサービスとして提供しています。「まるっとシリーズ」は既存のお客様のシステムをまるっとクラウドに移行することでシステムの運用管理コストを低減することができます。

今後も事業部門にある現場の業務向けの「ちょこっとシリーズ」、事業部門やIT部門向けの「まるっとシリーズ」をはじめとしたお客様にとって価値のあるサービス提供を拡充していきます。

	ちょこっとシリーズ	まるっとシリーズ
サービス	ちょこっとデータ変換/加工	帳票まるっとクラウドサービス コミュニティまるっとクラウド データ変換・加工まるっとクラウド
コンセプト	現場の“ちょっとした”業務課題を解決	システムの構築から運用・保守までをまるっと支援
利用者	現場業務に携わるチームや個人	事業部門 IT部門
提供形態	サブスクリプションサービス (さくらのクラウドマーケットプレイス)	ソリューション販売

サービスの詳細や、利用方法に関しては、「おしごと改革らぼ」をご参照ください。

<https://www.oshigoto-kaikaku-lab.jp/view/box?boxId=6lgM7yMXP>



# 2020年度UNIRITAユーザ会 研究部会全体会をリモートで開催!

今年度ユーザ会では、新型コロナウイルス感染症の影響により人が集まらない状況から研究部会の活動を休止していました。そこで例年とは形式を変え、9月より新たな試みとしてリモートによる研究部会活動を行う運びとなり、参加者を募っていました。

おかげさまで多くのユーザ会会員様にお申し込みをいただき、計55社101名の研究メンバーで活動を行うこととなりました。

地区	研究テーマ	研究グループ数
東日本 (IE)	リモートワークのベストプラクティス	6グループ (25社46名)
東日本 (OE)	IT運用業務のリモートワーク実現	2グループ (13社16名)
中部	開発・運用現場におけるリモートワーク改善	1グループ (4社5名)
西日本・九州	最新技術で実現するコミュニケーション革新とリモートワークの在り方	4グループ (18社27名)
全国 (マネジメント層)	マネジメント層から見たリモートワークの在り方	1グループ (7社7名)
計		14グループ (55社101名)

9月8日(火)にリモートによる全体会を開催し、活動方針の説明や研究メンバーの顔合わせを行いました。

今後は各研究グループにてリモートでの会合を行い、リモートワークに関する研究を行っていきます。



## システム 管理者の会

# 認定講座 初級コースをオンラインにて開催決定

システム管理者の会では、システム管理者を目指す若手から管理職までを対象にしたスキルアッププログラムとして、システム管理者認定講座を開催しています。ヒューマンスキルとテクニカルスキルの両面から、システム管理者に必要な知識や心構えの習得を目的としています。また、最終日に実施する認定試験に合格すると、全日本能率連盟の認証資格に登録されている「システム管理者認定資格」が授与されます。

本年度のシステム管理者認定講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により上期の日程をすべて中止といたしましたが、初級コースの下期日程をオンライン形式で開催いたします。講義の受講、グループでのディスカッション、および認定試験の受験といったすべてのカリキュラムをオンラインで行います。

※中級コース、上級コースにつきましては、日程および開催方法について検討中です。



初級 コース	システム運用管理を確実に実行できる人材を目指す方に。	1日目 ヒューマンスキル	2日目 テクニカルスキル ナレッジ編	3日目 テクニカルスキル 実践編
		コミュニケーション スキル	ITサービス マネジメント 入門	効果的な運用プロセス の実践
D日程		10/1(木)	10/22(木)	11/12(木)
E日程		2021/1/14(木)	2021/2/3(水)	2021/2/25(木)
F日程		2021/1/20(水)	2021/2/17(水)	2021/3/10(水)

詳しい情報やお申し込みに関しては、  
「システム管理者の会ポータルサイト」をご確認ください。

<https://www.sysadmingroup.jp/seminar/>





# ユニリタ 今昔物語



## コロナで大きく変わった今の労働環境やITの現状を考える

「近くに来たものですから」という挨拶で企業訪問が許された今までの営業スタイルは、コロナによって様変わりしつつある。私が社会人になった1980年代前半は、メインフレーム（汎用機）と呼ばれる数十億円のコンピュータシステムを保有する企業は大企業に限られていた。その他の企業はメインフレームを持つデータセンターでタイムシェアリングシステム（TSS）というサービス等を利用していた。メインフレームが主流の時代は90年前半まで続いた。AdabasやA-AUTOといったメインフレームで稼働するソフトウェアを販売していた当社は、ソフトウェアの製造／テスト／保守をするために、IBM、富士通、日立のメインフレームを保有・利用していた。そのメインフレーム上に、帝国データバンクから購入した企業情報データをもとに担当者や訪問履歴が蓄積された顧客管理システムCIS（Customer Information System）を構築して、営業はCISから企業情報を調べて訪問していた。

当時のソフトウェアの価格は数百万円から数千万円。営業体制は、直販営業が多くパートナーによる間接販売は今ほど浸透していなかった。部門はユーザと新規企業担当に分かれ、その他に新製品の専門部隊が存在した組織が続いた。お客様への接触のメインは訪問であり、飛び込み／デモ・説明会／事例ユーザ訪問が行われ、接待・ゴルフ等のリレーション作りが推奨された時代でもあった。訪問以外の活動では紹介セミナーの他、プライベート・フォーラム、ユーザ会も重要なイベントであった。当時はセミナー参加者1人には1万円の価値があると言われ、セミナー集客のためには、訪問以外にDM／電話／FAXも利用するようになってきていた。

営業は主にCISを利用したが、新規企業担当はその他に「コンピュータユーザー調査年報」という電話帳（見たことのある人は現在少数派となっているが）ほどの厚さの書籍から当社ソフトウェアが稼働する企業を調べては訪問アプローチを繰り返し、ユーザ獲得していった。

1980年代後半はメインフレームの低額化に伴い中堅企業にも普及したが、それ以上にオフィスコンピュータが浸透していった。1990年前半は、技術系利用が主であったUNIXをOSとしたWS（ワークステーション）が爆発的に浸透し、ダウンサイジングという言葉と共にソフトウェア価格も下がっていった。

現在ユニリタでは顧客DBや営業活動履歴はクラウド上に存在し、そのSFAを利用して活動している。新規企業へのアプローチはマーケティング部門が中心となった。営業はホームページやメール問い合わせをマーケティング部門から引き継ぎ対応し、直接新規開拓する役割は少なく、行動はコンシェルジュ的役割になって来ている。

さらにコロナによって営業スタイルは変わらざるを得なくなっている。コロナでお客様の出社日が激減し、勤務場所がオフィスから自宅へと変わった。面談ではメラビアンの法則\*さながら相手の表情や声のトーンを気にしながらの非言語コミュニケーションを意識して活用してきたが、オンライン面談では、Web画面を通した表情は読み取りにくくユーザとの会話も仕事・業務に絞られ、趣味や好みなど嗜好性や性格、生活様式といったパーソナルな情報の収集が激減している。

営業に求められるスキルや資質も変わってきている。今後は、メール、ブログ、SNSなどを活用した非対面のコミュニケーションスキルが必要となり、いかにわかりやすく心に刺さる文章を書けるか、といったビジネス文章のライティングスキルがより重要になってくる。製品情報の提供やセミナー集客もWeb、メール、SNSが主流な今日、マーケティング活動もより重要となるだろう。

社内においては、出社機会が減り非対面が活動の主流になってくると、対面コミュニケーション不足が社員の不安を招くことになる。コロナ以前では社内での何気ない会話や雑談、周囲への悩み相談やアドバイスから仕事のヒントを得てきたものであった。ソーシャルディスタンスが叫ばれる環境では、会話もマスクをしながらのアクリル板越しとなり、周囲からの情報収集に遠慮しストレスを感じている。その状況に慣れるのにはもう少し時間がかかりそうである。上司は業務遂行に関わる行動よりも人間関係を円滑にする行動がますます必要になってくる気がしている。

「久しぶり、元気だった？」久しぶりに出社すると声を掛けずにいられない自分がいる。

\*メラビアンの法則：矛盾したメッセージが発せられた時の人の受けとめ方についての影響度は見た目・表情・しぐさなどの「視覚」が55%、声の特徴・話すテンポなどの「聴覚」が38%、会話の内容などの「言語」が7%を占めると言われる。



担当者紹介

営業本部  
アドバイザー 辻 康孝



株式会社ユニリタ [www.unirita.co.jp](http://www.unirita.co.jp)

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383  
名古屋営業所 〒451-0045 名古屋西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研  
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ  
株式会社ユニ・トランド / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。